

自遊塾倶楽部広報紙 井戸端通信

Vol.49

発行
令和2年2月27日

〒930-0096
富山県富山市舟橋北町7-1
富山県生涯学習カレッジ
TEL 076-441-8401

県民教授に聞きました!!

平成七年十六講座から出発した自遊塾は、最近では百前後の講座、塾生も千五百名程と、多彩な人材が集まる生涯学習活動となっています。今回初めて「県民教授アンケート」を実施しました。

- ・実施期間 令和元年八月三十一日～九月三十日
- ・アンケート対象者 七九名(全県民教授)
- ・回答者 五三名(回答率六七・一%)
- ・方式 無記名 Webアンケート式

Q 応募理由はどんなこと?

知識や技能を社会に役立てたい!

応募理由の圧倒的多数が、「培ってきた知識や技能をほかの人や社会に役立てたい」であり、これは県民教授経験年数の多少に関わらない思いだと分かりました。

Q 自己評価はどうですか?

自ら勉強することで得るものが多い!

自己評価で最も多かったのが「塾生に教えるため自ら勉強しなければならず、得るものが多かった」であり、これも経験年数に関わらないことがわかりました。

Q 塾生からの忘れられない一言や嬉しいエピソードは?

「先生に出会えてよかった」

「参加して良かった。知識だけでなく人生が楽しくなり視野が広がりが行動的になった。居場所ができ多くの趣味、きっかけをいただいている」との忘れられない一言や、塾生の中から新たな活動が生まれ、講座の中で他の人に教える塾生が出てくる、という嬉しいエピソードもあります。

次のページに県民教授アンケート特集があります。

「教えることが最高の学習・

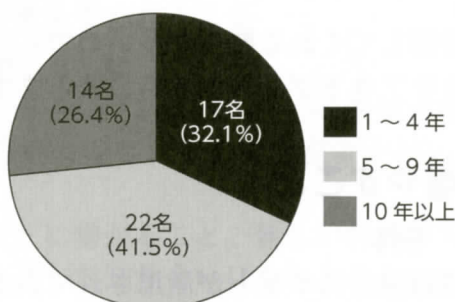
教え合う仲間づくり」

これが自遊塾です

あなたも県民教授になりませんか?

アンケート回答五十三名のうち十七名(三十二%)が県民教授経験四年以内です。経験年数は様々ですが、ともに教える仲間がいます。写真は昨年の学遊祭「自遊塾広場」での県民教授同士の座談会風景です。県民教授会では交流・研修を通しての講座支援も行います。あなたの知識や経験を県民教授として社会に役立ててみませんか。

県民教授経験年数



〈目次〉

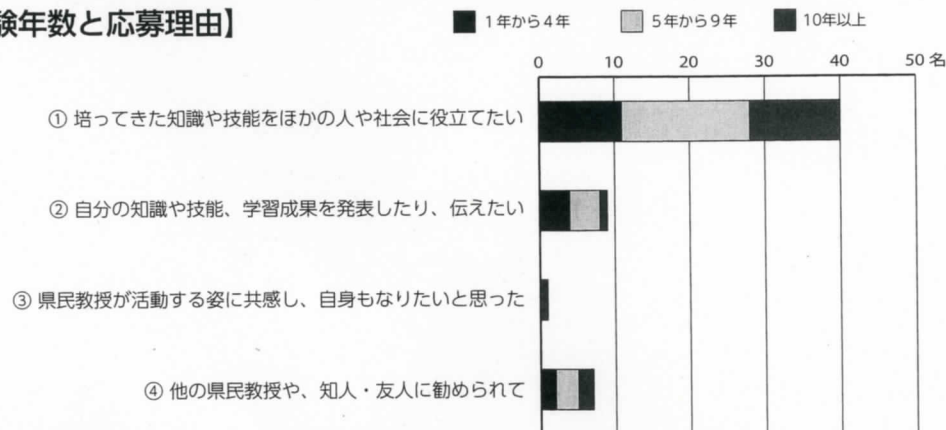
- p1～p3 県民教授アンケート
- p4 塾生の声
 - ・身近な自然観察
 - ・人生にPowerを
 - ・ふるさと文学
 - ・ゆるゆる演劇
- p5 新講座紹介
 - ・パズルで楽しむ経済学
 - ・読書のすすめ
 - ・日本史・郷土史
- 講座紹介
 - ・やわらかい粘土
- p6 講座紹介
 - ・ICCレポート
 - ・弦楽アンサンブル
 - ・天災が歴史を作った
 - ・立山曼荼羅の道
- p7 県民教授会報告
- p8
 - ・塾生俳句作品
 - ・井戸端通信 Web版の例
 - ・今年度の記録

自遊塾は県民教授と塾生とが

学び、交流し、成長する場です

“知識や技能を役立てたい” が県民教授の経験年数に関わらず一番多い

【経験年数と応募理由】



○「やりがい、喜び、嬉しいこと」は共に学び、交流すること

“共に学ぶ”に関するもの 14件

- ・共に学び合えること。人としての絆
- ・教えるには、自分が納得いくような知識が必要なので、その為の事前勉強ができること
- ・塾生と共に学べること。塾生から県民教授が育つこと
- ・素晴らしい塾生に出会えること
- ・塾生と一緒に活動を考えてくれること

“交流”に関するもの 11件

- ・塾生の皆さんと同じテーマで語り合い、心の交流ができること
- ・同好の人々と知り合いになり、その後も交流が続いて、活動が出来ること
- ・自分自身の為（成長）に繋がること。新しい仲間づくりの一環になること
- ・知らない方と講座を通して知り合いになったこと



“伝える”に関するもの 9件

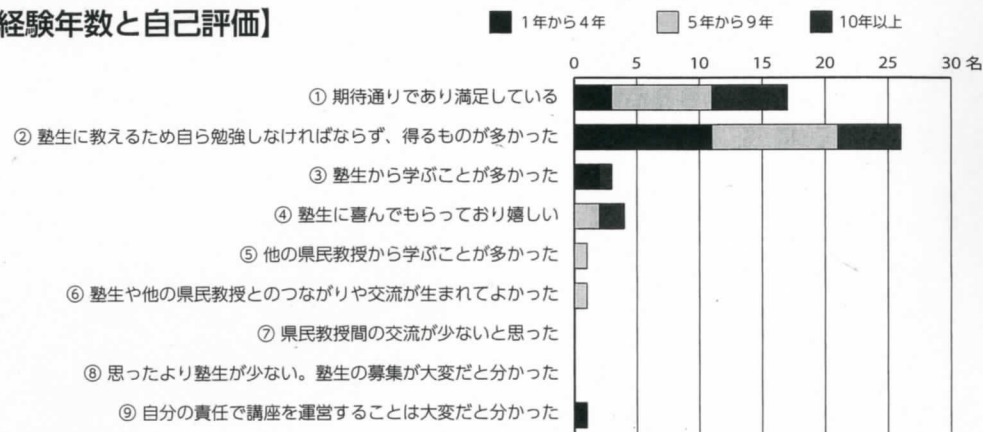
- ・自分の研究テーマを人に伝える場ができ、自分自身さらに探究意欲に拍車がかかった
- ・自分の知識を伝えて喜んでもらえること
- ・富山の魅力について知識を得た塾生が、ボランティアとして活躍しはじめたこと
- ・自分の知識を塾生に伝えることと、講座終了後にも友人として付き合えること
- ・そば打ちの魅力を理解し、趣味として人生を豊かに過ごす一助になっていること
- ・何年も続けて来て下さる方がいること。飽きないように楽しい工夫、改善をする気持ちを継続できること

その他 18件

- ・地域の公民館やサロンなどから講演依頼があり、県民教授は信頼度があると感じた。

県民教授になってみると「自ら勉強せねばならず得るものが多かった」

【経験年数と自己評価】



○「苦勞、負担、難しさ」は塾生集めと知識・教材のブラッシュアップ

55件の記載

- ・自遊塾の知名度は現時点では残念ながら高くなく、多くの講座に埋没し、塾生がなかなか集まらない。
- ・知っている知識が時代とともに風化して、常に最新の知識を得なければいけない。
- ・講座の準備
- ・毎年、変わった教材の確保
- ・毎年の講座内容をどう新しくするか（毎年受講してくれる塾生が多いので）
- ・レジュメ作成。自分自身の学び・体験・気付きをアウトプットする時に悩みます。



○意見、希望は情報発信や交流の場を増やすこと

情報発信・共有、ネット活用に関するもの 9件

- ・公的機関を含めて多くの団体で情報共有・情報発信にネットが活用されている。ネットを活用しない方への補完を行いながら、積極的に利用していく必要がある。
- ・自遊塾として県民教授同士（場合によっては塾生も含めて）自由に情報交換できるネット上の広場があればいい。

交流に関するもの 7件

- ・もっと交流を増やす。県民教授同士、県民教授と塾生の間、他の講座との交流、塾生間の交流
- ・長く講座を続けている方の運営の秘訣や工夫を知りたいです。

その他 14件

- ・私はボランティア講師として活動できることに感謝しています。

塾生の声

知りたい、見たい好奇心

〈身近な自然(動植物)の観察〉

塾生 上埜 玉紀

現在県民教授をさせて頂いております。他の講座を覗けば又何かが変わるかな?と考えつつ、ここ何年も他の講座をのぞいたこともなければ受講生として参加したこともありませんでした。それで今年は何としても参加したいと思い、好きな自然を満喫できる講座『身近な自然の観察』を選びました。楽しかった楽しかった!何が自分に合ったのか考えてみると、樹木草花みんな好きなことでした。ザリガニの真夜中の大移動、黒サンショウウオの生活、シュレーゲルアオガエルの産卵する場所、など、身近に住む動物でありながらこの齢になっても解らないことにこたえてくれる、知りたい、見たい好奇心を満足させてくれる講座でした。自然散策しながら川の中に入り、カワゲラやカゲロウの幼虫を調べるなど、子供の頃に戻った様な感覚が新鮮でした。できれば来年も受講したいと思っています。

皆が笑顔になる憩いの空間

〈人生にPowerを呼び込もう〉

塾生 牧野 由美

「この時間を楽しみに、今週末頑張ってきたの〜」そんな言葉を耳にするほど、この「人生にPowerを呼び込もう!!五感活性術」のクラスは、皆が笑顔になり元気が出る講座です。

毎回新しい情報を教えていただく上に、副題の「五感活性術」の名の通り、講義の内容も楽しくて濃い。素敵な香り、クリスタル・ボウルの生演奏、世界中の健康に良い食材などを実際に聴いたり味見をしたりとテーマごとに体感し学べます。

今年は、希望者対象のバスツアーでオルゴール療法やハーブ料理や白山比咩神社参拝にも行きました。日常生活にほんの少し五感を喜ばせる工夫を取り入れることで、人生が楽しくなりました。

それぞれの分野の詳しい資料と共に、満面の笑顔で素敵な生き方のコツを教えていただき、毎回、林先生と岡崎先生、仲間の受講生の皆さんにお会いするのが大変楽しみです。

「万葉集全二十巻朗唱の会」参加

〈ふるさとの文学めぐり(入門編Ⅷ)〉

塾生 小善 久範

「ふるさとの文学めぐり(入門編)」講座で毎年参加している行事に「万葉集全二十巻朗唱の会」があります。

特に今年は元号「令和」で注目され、朗唱参加希望者が例年より多かったと聞きました。

朗唱は毎年十月の第一金曜日から三日間に亘って、高岡古城公園の水上特設舞台で行われますが、今年の初日(十月四日)は強い風雨で体育館での開催となりました。

しかし、晴れ男・晴れ女が揃っているのか私たちが参加した五日は幸いにも雨が上がり、例年どおり水上舞台で朗唱できました。



残念ながら練習不足もあり高らかに朗唱とまではいきませんが、万葉の衣装のお陰で気分は万葉人でした。

万葉集朗唱に興味ある方は私たちの講座に参加され、一緒に水上特設舞台に立ちませんか?

演劇の楽しさを再確認できました!

〈若男女問わすゆるゆる演劇ワークショップ〉

塾生 竹井 友霞

高校の時演劇部に所属していたのですが、社会人になってからは演劇から離れていました。もう一度演劇を楽しんでみたいと思い、このワークショップに参加しました。毎回、基本の発声練習、滑舌練習をした後、その月から連想される言葉を身体で表現する簡単なゲームをしたり、即興劇をしたりして楽しむというプログラムでした。

特に楽しかったのは物になりきる即興劇です。電化製品「筆記用具」などの物になりきるといっのは今までもしたことがなかったのですが、どんな性格かなと考えたり参加者の皆さんとその瞬間その瞬間でアイデアを出し合ったりして、オリジナルストーリーを作るのが面白かったです。また、皆さんとてもユニークなキャラクターを演じており、いつも笑っていました。このワークショップで演劇って楽しいなと再確認することができたことも、たくさん笑って日々の生活からのリフレッシュにもなりました。演劇をしたことがないけれどやってみて、という方には、びったりのワークショップだと思いました。もし来年度また開講される時は参加したいです。



新講座紹介

●本部新講座

パズルで楽しむ経済学

県民教授 浅井 修平

お小遣いの日まであと一週間をしのがなければならぬ学生さん。

今度のデートで彼女のハートを射止めたい適齢期の壮年さん。

観たい映画を前にしても、懷具合も心構えも違いますね。

映画館側では、こんな事情を見越して、入場料を「きめ細かく区分」しています。そうです。利益を最も大きくしたいので（笑）

このように、日ごろの暮らしの中でみられる様々な場面の水面下には「どちらが得かな？」という気持ち同士がせめぎ合っています。

せめぎ合いに潜む仕組みを、パズルで楽しく発見してみませんか。

経済学科目の受験を控えた方も大歓迎。「急がば、回れ！」で楽しみましょう。

経済学学科目の受験を控えた方も大歓迎。「急がば、回れ！」で楽しみましょう。

経済学学科目の受験を控えた方も大歓迎。「急がば、回れ！」で楽しみましょう。

ご鑑賞作品 Your choice film		
一般	0	人・専門生 ¥1,500 - 学生証が有効です。
シニア	0	大編50割 ¥1,200 - 第二半券持主の50割、ごちの50割 50割以上、各10割増が有効です。
高校生	0	中学生 ¥1,000 - 学生証が有効です。

●高岡地区センター新講座

読書のすすめ

読書も自分流し

県民教授 中嶋 昭三

本からの知識には、これからの人生の道標になることが沢山あります。

「本を読むことを習慣にする」方法や「趣味としての読書から人生を切り拓くための読書」へ転換する方法について一緒に楽しく学ぶ講座です。

成熟した社会では、本を読まない人は自らの「幸福論」を自分で見つけていかなければなりません。

本を読むと何が得か？本嫌いの人も読書習慣が身につく方法などについて、そのノウハウが七回講座で楽しく身に付きます。

毎日少しの時間でも読書することが大切です。そのためには「工夫」が必要です。その工夫のヒントは、講座のなかでの学習や受講生同士の様々な交流で自然に見えてくると思います。わいわいと皆で楽しく学習しましょう。

毎日少しの時間でも読書することが大切です。そのためには「工夫」が必要です。その工夫のヒントは、講座のなかでの学習や受講生同士の様々な交流で自然に見えてくると思います。わいわいと皆で楽しく学習しましょう。

毎日少しの時間でも読書することが大切です。そのためには「工夫」が必要です。その工夫のヒントは、講座のなかでの学習や受講生同士の様々な交流で自然に見えてくると思います。わいわいと皆で楽しく学習しましょう。

毎日少しの時間でも読書することが大切です。そのためには「工夫」が必要です。その工夫のヒントは、講座のなかでの学習や受講生同士の様々な交流で自然に見えてくると思います。わいわいと皆で楽しく学習しましょう。

毎日少しの時間でも読書することが大切です。そのためには「工夫」が必要です。その工夫のヒントは、講座のなかでの学習や受講生同士の様々な交流で自然に見えてくると思います。わいわいと皆で楽しく学習しましょう。



●砺波地区センター新講座

砺波地区の郷土史について

学んでみませんか

〈日本史・郷土史の基礎を学ぶ〉

県民教授 中明 文男

日本史、特に砺波の郷土史を、一緒に勉強してみませんか？高校で習う歴史と比べながら地元の歴史を考えてみたり、当時の遺物や史跡について理解を深めたりすることが出来ればよいと思います。私は、砺波散村地域研究所で少しだけ勉強させていただいたことがあり、その時に学んだことなども紹介したいと考えています。たとえば、今度、国道359号線バイパスに新しく出来た橋の名前から古代史について考える。般若野荘や増山城下などに関わる歴史をもとに中世史について理解を深める。天正の大地震以後の庄川の治水と新田開発の様子について学ぶ。このようなことを計画しています。一コマの講座の前半は歴史概論（少し堅い話になるかもしれませんが、後半は史跡や遺物の紹介（スライドと説明が間に合うか自信がありません）という形で実施する予定です。決して、学術的な内容ではないので、むしろ素人の方、初めて地域史に触れることになるという方を歓迎します。また、講座を通して、是非、地域の情報を教えていただきたいと願っています。

●新川地区センター開催講座

楽しむ情熱

〈こねこね教室

（やわらかい粘土を使って楽しもう）

県民教授 中山 草子

「とにかく楽しむ」が目標の講座です。柔らかい粘土をこねる作業は不思議と心を癒してくれます。と同時に、高い集中力を引き出します。塾生の皆さんの真剣な取り組みには心打たれるものがあります。

講座では季節に合わせた作品作りを楽しみます。時には細かい作業もありますが、完成した時の達成感は大なもの。塾生の皆さんは更に工夫を凝らし、独自に制作される程にステップアップしておられます。県民教授としてこんなに嬉しいことはありません。

私は塾生の皆さんの笑顔と笑い声に溢れる講座を目指してきました。その目標に近づくことができているのかと考えた時、皆さんの楽しい雰囲気、素晴らしい作品を思い出して安堵します。

自遊塾の全ての皆様に感謝申し上げます。

自遊塾の全ての皆様に感謝申し上げます。

自遊塾の全ての皆様に感謝申し上げます。

自遊塾の全ての皆様に感謝申し上げます。

自遊塾の全ての皆様に感謝申し上げます。

自遊塾の全ての皆様に感謝申し上げます。



●本部(教育文化会館)開催講座

気候変動への取り組み

〈第5次IPCCレポート解説〉

県民教授 湊 輝男

地球温暖化には、人間活動の影響が支配的な原因であることを、疑いの余地はないといわれています。これらの現象を、気候変動に関する政府間パネル評価報告書(IPCCAR5)を基に、その概要と人類の取り組みを学習します。ツールに地球温暖化ムービー(DVD)、YouTube映像を活用して、北極の氷床、アフリカの砂漠化、南洋の島嶼国の浸水等の課題を学びます。主なものとして、

1 炭酸ガスの累計総排出量とそれに対する平均地上気温の関係は、ほぼ比例関係にあります。

2 ここ数十年、気候変動はすべての大陸と海洋にわたり自然および人間社会に影響を与えています。

3 二一〇〇年時点の温室効果ガスを基準に緩和シナリオを四分類でシミュレーションを行っています。

今回は、「地球変動枠組条約締約国会議」(COP)、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の設立趣旨と事務局の所在地を話題にしてから、温室効果ガス排出量(環境省、新とやま温暖化ストップ計画(富山県)を説明しました。部門別の温室効果ガス排出量は民生家庭で漸増しているのを見て、国民一人ひとりが省エネルギーに関心を持

ち、将来ライフスタイルを見直す必要があるとの共通認識に達しました。

また、県民教授に加え、塾生も講師になって多様な視点から地球環境問題を話し合いができたという提案をもらいました。そして、関心の高い塾生へ、塾外のとやま環境フェア2019および地球温暖化防止・適応策セミナーの案内を郵送し、塾生と絆を繋いでいます。環境に係るエシカル消費・環境にやさしい素材を選択し省エネ活動を推進するよう意識を高め普及啓発する有意義な講座です。

心ひとつに感動のハーモニー

〈富山弦楽アンサンブル(前期・後期)〉

県民教授 長谷川 弘子

音楽好き、弦楽器が多少弾ける方もベテランの方も『集まれ!!』、このようないい加減な塾が、富山弦楽アンサンブルです。クラシックからアンメソングまで取り組んでいます。職業は種々、退職された七十代の方から十代の若い方までが集まり、まとまり、発足して十年間毎年学遊祭に出演させていただいています。チエロ等の二人の先生も加わり、研鑽と練習方向を共有し、楽しくそしてまた少しだけプレッシャーを感じてもらいながら続けています。

私たちは、毎年



受講生の真摯な姿に感動を覚えています。本講座には、新たな楽曲、美しい音楽、そして新しい発見と感動のハーモニーが待っています。あなたも参加なさいませんか。

●高岡地区センター開催講座

災害への備えを学ぼう

〈二天災が歴史を作った〉

気象・地震・火山と日本史

県民教授 野水 淳一

令和元年度は三講座を開催しました。その中から、〈二天災が歴史を作った〉「気象地震・火山と日本史」を紹介します。私は三年前から「気象」と「防災」の講座を行っています。気象庁勤務の経験や防災士の資格を活かした内容となっています。今年度は、さらに日本における天災の歴史も加味した内容にしました。過去の災害を知り、それを教訓にしたかったからです。

近年地球温暖化の影響もあり、日本でも大災害が頻発しています。大水害だけでも昨年は西日本、今年は関東東北が襲われています。この富山県もいつ同じようなことになるかも知れません。その備えや心構えを気象や地震等のメカニズムと共に学び、防災に活かして行きたいと思っています。幸いなことに富山県は「日本一災害の少ない県」と言えるでしょう。ここ百年大きな地震も経験せず、水害もしばらく経験していません。しかし災害はいつ何時訪れるかわかりません。その備えを学ぶことは大切です。

●全域・外部開催講座

立山道踏査

〈立山曼荼羅の道を歩く〉

県民教授 柵 富雄

広大な立山の特異な地形と自然に由来する歴史・文化はあまり知られていません。この講座は、立山曼荼羅に描かれている立山道を歩き、数々の伝説が生まれた場所を探訪し、時空を超えて立山の歴史を感じ取るものです。今年度は、塾生による立山道調査を行い、県内各地に点在する立山道に由来する石仏・道標・寺社をめぐり、調査票を作成しました。中には県内に残る立山道を全て調査し、他の塾生に情報提供するほど熱心な活動をなさった方もありました。また



室堂への体験ウォークでは、それぞれが体験した立山登拝道の様子を記録しまとめました。体験ウォークの前後には、専門家によるレクチャーを受け、塾生自身の調査・体験と照らし合わせた意味づけを行い、深く学ぶことができました。また、学遊祭で学習発表(展示を行い、学習の成果として広く紹介しました。このように、この講座では塾生が自ら調べて学び発表します。その中で、「身近に残る立山道を再認識した」、「実際に歩いてきたところに長い歴史があることがわかった」、「まだ訪ねていない立山道を歩きたい」などの声が聞かれます。

自遊塾県民教授会

「交流・研修部会」の活動について

交流・研修部会長 柵 富雄

多彩な講座が開かれる自遊塾、その県民教授との交流は発見と感動に満ちています。また、県民教授の姿に共感し新たに県民教授としてデビューする方を積極的に迎え入れ応援することも大事です。「交流・研修部会」はこのような機会を育てる目的で活動するグループです。

今年度は部会として四つの活動に取り組んできました。

1 砺波、高岡、新川、富山の各地区で交流会を企画・開催し、県民教授の出会い、発見の機会を作ってきました。砺波地区の交流会では、「自遊塾オープン・キャンパス」の試みとして、塾生も参加する体験受講を開きました。また、富山地区では、学遊祭に集う県民教授や塾生が交流する「自遊塾ティナー会」も開きました。

2 学遊祭「自遊塾広場」で自遊塾の講座を紹介し合い、交流のきっかけにするともに、新たに県民教授を目指す人へのデモンストレーションを試みました。



3 部会員のつながりを育てるため、ランチミーティングを開きました。県民教授の交流を育てるために部会としてどのようなことができるか、活発な意見交換が行われました。多彩な活動をされている部会員が集まりやすくする工夫を行いながら、随時開いていこうという声が挙がっています。

4 すべての県民教授が集まる機会として、毎年の自遊塾発足日を開講式に位置付けることができないか、事務局と相談して検討を始めています。

このような活動を今後も活発に行う際には、部会員の連絡体制が大事になってきます。そのため、電子メールや

SMS（ショートメッセージ）などをさらに活用して、いつでも気軽に連絡を取り合えることが必要と強く感じています。

出前・庶務部会の課題

出前・（庶務）部会長 平田 清志

今年度の「県民教授会組織・所属部会の表を見れば三部会中、「出前・（庶務）部会」が最も多く三四（部長・副部長を含む）である。この県民教授が顔を合わせ討論したのは第一回県民教授会だけである。その時の参加県民教授は一〇名のみ（部長・副部長を含む）であった。討論時間はわずか一五分。ほとんどが初顔合わせなので討論前に自己紹介したが、それだけで時間が過ぎてしまった。少なくとも一時間の討論時間を確保した部会を年に三回は開くべきであろうと感じた。

多忙等の理由で「出前・（庶務）部会は何もしないから所属している」と言つのは論外として、若干の討論時間で分かったことは、所属県民教授は出前講座を開くことに積極的なことである。だが、或る県民教授から指摘を受けたのだが、この部会は、出前講座を幹旋するためにあるのではない。

「広報部会」は広報等を発行し広報活動をする、「交流・研修部会」は交流会・研修会を開催すること、という明確な部会の目的が分かるが、「出前・（庶務）部会」とは、そもそも何を部会として出発したのか？ 県民教授はこの部会に何を求めているのか？ 過去にこの部会はどうな活動をして来たのか、あるいは何もしてこなかったのか？

今後は、この部会の名称、部会の再編成を含め部会のあり方を議論したいと思っています。

広報部会の活動について

広報部会長 森川 敬三

広報部会の今年度の重点として、次の活動を行いました。

1 「井戸端通信Web版」の発行増と閲覧増への取り組み
広報部会では、Web版を数多く発行し、広く県民の皆さんに自遊塾の活動を知っていただきたいと考えています。

① 講座の実施ごとに、速報性をもって広報することが出来ます。

② 一年を通して、興味・関心のある方に各講座の実施内容を紹介することが出来ます。

③ 写真等を用い講座の内容を分かりやすく発行することによって、閲覧する方の興味・関心を喚起し、塾生の増加に役立ちます。

④ その時点まで、あるいは一年間のまとめになり、講座記録として残すことが出来ます。

(2) 「井戸端通信Web版」の発行増と閲覧増を図るため、
① 発行と閲覧を促す「Web版発行の勧め」の文書を全県民教授に二回配布しました。

② 「井戸端通信」Vol. 49ホームページに実際に発行されたWeb版の例を掲載しました。

2 広報紙「井戸端通信」のVol. 49の発行
(1) 効率的な発行に資すると考え、早めに原稿依頼等を行いました。

(2) 県民教授アンケート結果を中心に、見やすい紙面を工夫しました。

3 塾生・県民教授募集要項とタイアップした広報活動の実施
(1) 「井戸端通信Web版」の発行が塾生や県民教授の募集に資することをお知らせしました。

(2) 講座紹介や塾生の声を掲載し、自遊塾への興味・関心を誘いました。

【お願い事項】

1 「井戸端通信Web版」の発行

これから塾生の募集が始まります。新たな塾生を獲得するために、各講座の特色が分かる「井戸端通信Web版」を発行してください。

2 県民の自遊塾に対する認知度は、まだまだ高いとは言えません。仲間を増やすために、令和二年度の塾生募集要項やこの「井戸端通信」、「井戸端通信Web版」を多くの方に紹介してください。

「井戸端通信Web版」のサイトへは、

(1) 「県民力レッジ」で検索

(2) 「富山県民生涯学習力レッジ本部トップページ」をクリック

(3) トップページにある「ホームページ内を検索する」に「Web」と入力、検索

俳句を作る 富山を語る

塾生作品

お日さまに向いて竜胆大あくび
小春日や二度の皮脱ぎ足弾む

昭夫

被災地を飄々と行く蜻蛉かな
紅葉且つ散る溪流の音近し

佳紳

新幹線君を見送る星月夜
和太鼓の響くステージ夏の海

久美子

祭かな飛び交う出店^{だし}の国言葉
空蟬よ葉の一枚にしがみつ

幸子

で虫を見つめる瞳始業ベル
不作の日曲がり胡瓜をそと撫す

仁子

新樹光朝の紅茶は濃く淹れる
夏見舞山頂局のスタンプで

多喜子

群鳥の声より夏の夜明けかな
園児らの同じメダルよ運動会

千賀子

病む母の笑みははんぶん半夏生
菊日和メールの増える誕生日

朋子

の笑み孫彷彿と菊日和
ひと風の手品師のごと銀杏散る

ふみ子

読みかけの三冊の昨夜の薄暑
青空や葉先に揺るる秋茜

洋子

自遊塾倶楽部広報紙

発行 令和元年9月22日

井戸端 通信 Web 版 (No.66)

講座紹介	講座名 富山の名水探訪		
	講座番号	U1568	県民教授 氏名 岡岸 喜義

令和元年度の「自遊塾富山の名水探訪」後期第4回講座（9月21日）の活動内容を紹介します。
今回は、富山中部南方面の名水探訪を実施しました。

曇天の中、教育文化会館北側県職員駐車場を午前9時に出発しました。
「八木山の滝」から道の駅りんりんまでトイレ休憩、その後「小糸の弘法の水」（硬度 21pH6.9）大沢
野春日の「殿様清水」（硬度 43pH5.8）八尾桐谷の「ガット出の水」（硬度 62pH7.9）を午前中に探訪し
ました。ガット出の水で周辺の清掃活動をいたしました。

八尾三ツ松の「はたるの館」で昼食、その後「桂の清水」（硬度 18pH6.8）そして「杉谷の霊水」
（硬度 35pH6.5）を探訪し無事、後期の現地探訪を終了いたしました。

アンケートの結果、「ガット出の水」が一番おいしい水となりました。

小糸の弘法の水



水温 11.6℃

「ガット出の水」での清掃活動



水温 12.4℃

Web版の作成について

- (1) 内容を書き込んだり写真を張り付けたりするWord、Excelの様式
があります。この様式を事務局から電子メールで添付送信してもらいます。
作成後、事務局へ添付送信します。
- (2) 手書き原稿もそのまま載せられますが、できるだけ塾生などに電子化して
もらってください。

「井戸端通信Web版」の例

令和元年度の記録

1 開設講座

- (1) 総数 九九講座
(2) 県民教授 七九名
(3) 受講者数(延べ) 一、三六八名

2 交流会の実施

- ◎ 砺波地区交流会 ◎
(1) 開催日 九月二十六日(木)
(2) 開催場所 となみ散居村ミュージアム
(3) 参加人数 一三名

- ◎ 富山地区ディナー交流会 ◎
(1) 開催日 十月五日(土)
(2) 開催場所 台湾料理 全家福
(3) 参加人数 一三名

- ◎ 新川地区交流会 ◎
(1) 開催日 十月十九日(土)
(2) 開催場所 滑川市民交流プラザ
(3) 参加人数 八名

- ◎ 高岡地区一泊交流会 ◎
(1) 開催日 十月二十五(金)～二十六日(土)
(2) 開催場所 コマツ氷見海浜クラブ
(3) 参加人数 九名

3 県民教授会役員

塾長

澤田 隆彰

副塾長

桐田 富雄

広報

部長

森川 敬三

交流・研修

部長

木下 晶

出前・庶務

部長

藤井 秀明

副部長

岩田裕美子

副部長

青木 正樹